

カリタス女子中学校 第三回入学試験

二〇一八年二月三日 実施

# 国語問題

(五〇分)

\*答えはすべて解答用紙に記入すること。

\*字数の指定がある場合は、句読点をふくむこととします。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついた言葉には、文章の最後に注をつけてあります。

ローゼンバーグという研究者が、自己肯定感じこうていかんには二つあると言っています。

それは英語でいうと「very good」、自分のことをとてもよいと思えるかどうかということと、もうひとつは「good enough」、自分はい

れでよい、という考え方です。

これは二つとも非常に大切な考え方です。

自分を「very good」と思えていれば、問題はありません。ただ、いつも「very good」と思えるとは限りません。いつも試験で百点をとれるわけではないし、スポーツの世界でも、どんな名選手でも試合に負けることもあればスランプが続くこともあるのです。そんなときは、自分のことを「very good」だとは思えない。

1 「自分はとくに人より自慢じまんできるものもないし、自分をvery goodだと思ったことなんてないよ」と言う人もいます。にもかかわらず、自分が大事な人間だと思うためには、「good enough」、<sup>A</sup>これでいいんだと思えることが大切です。これもとても重要な考え方ですので、少し説明したいと思います。

まず、どんなときに自分が大事な人間だと思えるか。いちばんわかりやすいのは、「役に立つ」と言われることです。

ここで、「赤鼻のトナカイ」(J・マークス詩／新田宣夫しんたののぶお訳詩)という歌を思い出してみてください。子どもから大人まで、最低三回は歌ったことがあると思われる、有名なクリスマスソングですから、みなさんご存知ぞんじですね。

トナカイは鼻が赤いという理由でいじめられて、いつも泣いていました。ところがクリスマスの夜に、サンタのおじさんがこう言うのです。「暗い夜道はピカピカの／お前の鼻が役に立つのさ」と。そこでトナカイさんは「今宵こよひこそは」と喜んだわけですね。「役に立つ」というこの感覚は、自分が大事な人間であると思える、たしかな理由の一つです。これはどちらかというとvery goodに近いですね。

### 〈 中 略 〉

「何かができる」というのは、たとえば、仕事ができる、勉強ができる、ピアノを上手じょうずに弾くことができる、人よりも速く走ることができる。あるいは私がいるおかげで、学校の合唱コンクールでクラスがいい<sup>①</sup>セイセキをおさめることができる。私がリレーの選手だから、体育祭でクラスを勝たせることができる。

あるいは、クラスのヒーローみたいに目立つことはないけれども、絵が得意だから学級新聞のイラストを頼まれる。料理が好きで上手にできるから、家庭科の時間にちよつと尊敬される。地味な目立たない子なんだけど、お掃除は手際よくていねいにやるから、じつは男子生徒の間ではひそかに人気がある。

このように、役に立つ、何かができるといふことは、自己肯定感の原点になります。

これは非常に大切で、たとえば学校であれば、たしかな学力も大事な支えになるのです。「学力は大事だ」といふことが、何となく社会的に言いにくい雰囲気がかこしばらくは続いていました。でも、いまの社会は厳しいですから、正社員の募集にたくさん応募がきたときに、やはり能力のある人を選ぶ。能力というのはただ毎日をだらだら過ごしていた人にはつきません。そのためにも、勉強やスポーツ、美術や音楽でも何でもいいのですが、何かを一生懸命やって「学び」を得ることは本当に大切なことなのです。

ようするに、勉強でもなんでも「何かを努力して、一生懸命やったこと」によって能力をつけることが、自己肯定感という心の安定を得るいちばんの近道です。いちばんの近道といつても、その距離は長いのです。《C》でたどりつける道ではありません。

2 私も、どんなに温かい心を持って人の力になりたいと思つても、もし医学部に入ることができずに、医師国家試験に合格しなければ、この仕事はできません。やはり、つらくて厳しい受験勉強だったけれども、頑張つて勉強して大学に入ったこと、そしてそのあと医師国家試験に合格して資格を得ることができて初めて、こういう仕事ができるわけです。もっと遊びたい、もっと趣味に時間を使いたいと思つても、それを諦めて努力しなければならぬ。やはり、**D** 相応の代償は必要になります。勉強や練習はたしかにつらいけど、それを我慢してやる期間というのは必要なのです。

ただしこれにも限界はあります。役に立つときはOKなのです。役に立つから、僕は生きていいんだと思える。しかし、**E** 役に立たなくなつたときにどうしたらいいのでしょうか。

たとえば私がここにボールペンを持っているのは、ボールペンがものを書くのに役に立つからです。だからインクがなくなれば、このボールペンは捨てて、新しいものを買っていきます。

これが人間ならどうでしょうか。役に立たなくなつたら価値はなくなるのでしょうか。「いや、モノと人間は違うよ」と多くの人は言うと思います。でも、ある意味でインクの切れたボールペンと同じなのです。わかりやすい例がプロ野球選手です。プロ野球選手は、選手として活躍できる間だけ、その世界にいらることができなのです。活躍ができなくなつたら、戦力外通告を受けて、追い出されるわけです。

プロスポーツの世界は厳しいですから、役に立つときはそこにいられるけれども、そうではなくなったらいなくなるのです。厳しいけれどこれが現実です。

これはほんの一例ですが、プロスポーツの世界に限らず、私たちの社会も資本主義社会ですから、仕事ができる人はいいけれども、仕事ができない、あるいはできなくなったらそこにとどまれないというのが多くの場合現実です。会社の②ケイエイが厳しくなっていけば、リストラをして人数を減らさなければいけないわけですから。

#### 〈中略〉

人は役に立つときは自己肯定感を持つことができます。③、もし役に立たなければ、非常に苦しいわけです。

このとき、「役に立つ、だから自分は大事だ」ではなく、「役に立たない、何もできない自分でも、私は大事な存在だ」と考えるためにどうしたらいいのでしょうか。

役に立たない自分が、それでも「good enough (これでいい)」と考えるかどうか。人はどういう条件がそろったときに「これでいい」と考えるのでしょうか。

じつはこれについては、私もホスピスの現場で、<sup>※</sup>終末期の患者さんと接している中で、毎回一生懸命探し続けているのです。

これを考えるヒントとして、父の③形見の時計の話をしたと思います。

時計というのは時間を知るための道具ですが、たとえ壊れてその機能が失われたとしても、私にとっては形見の時計は大事なものです。尊敬していた父がつけていたのですから。そういう関係性が、時計としての機能などとは比較できないほど、私にとっては大切なのです。だから、この先壊れても捨てたりはしません。

このように考えれば、本来の役に立ち方で「役に立たなく」なったとしても、別の存在価値——「役に立つ」に代わる支え——は、視点を変えれば必ず見つかるはずなのです。

しかしこればかりは、簡単に他人から「これですよ」と差し出すことはできません。

④、一人ひとりの支えられ方は、きわめて個性が高いものだからです。この形見の時計の例でいえば、私にとっては大事な父の形見ですが、もし壊れてしまったら、他人にとってはただの壊れた時計にすぎないのですから。

ある人は関係性で支えられると言いますが、ある人は関係性は支えにならないと言います。つまり「この支えがあれば誰でも大丈夫だ」

というものはなくて、一人ひとり支えられ方が異なるのだということを、まず大前提にしなければなりません。

ある人は死がこわいと言うかも知れないし、ある人は違う苦しみを抱えているかもしれない。基本的に苦しみは個別性が高いのです。

F この人がこうだから、あなたもこうでしょうということにはなりません。個別性が高いということをおわかつたうえで、一人ひとり違う苦しみの中でおだやかだと思えるような、役に立たない自分なだけで自分が大事だと思えるような支えられ方を、その本人の言葉や態度から丁寧にキャッチして、それを援助として太くしていくことを考えていきたいと思います。

〈小澤竹俊著『いのちはなぜ大切なのか』（ちくまプリマー新書）より〉

## 〔語注〕

※ enough……………十分な、必要なだけの。

※ 戦力外通告……………プロスポーツの選手が、所属チームの監督から戦力として試合で活躍できないと判断され、そのことを伝えられること。

※ リストラ……………「リストラクチャリング」の略語。悪化した事業を会社が様々な方法で立て直すことを指すが、本文では会社が社員を退職させることを指す。

※ ホスピス……………末期がん患者らの痛みや精神的、社会的な苦しみを和らげる治療のための施設。

※ 終末期……………病気が治る可能性がなく、数週間から半年程度で死をむかえると予想される時期。

問一 ① セイセキ ② ケイエイ ③ 形見 のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 ① 1 ② 4 にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

ア しかし イ たとえば ウ なぜなら エ ところで オ あるいは

問三 A これでもいいんだと思える とありますが、その具体例としてふさわしくないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野球の試合でホームランを打つことはできなかったが、守備のミスは一度もせず勝利に力を貸せたと思っている。

イ 漢字のテストで合格点には五点足りなかったが、合格点をとるためにこれまでにないほど努力できたと思っている。

ウ 料理の材料を買い忘れてしまったが、代用できる物を探して料理を完成させ、他の人にもおいしく食べてもらえたと思っている。

エ 工作の宿題を姉に作ってもらったが、先生はそのことに気づいていないのでそのまま気づかなければよいと思っている。

オ 学芸会の劇で第一希望ではない役を任されたが、台本を読み、練習を進めている今ではその役の方が自分に合っていると思っている。

問四 B そのためにも とありますが、「その」とはどのようなことを指していますか。「くため」という形になるようにまとめなさい。

問五 《C》に入る四字熟語としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一期一会 いちごいちえ イ 一世一代 ウ 一進二退 エ 一長一短 オ 一朝一夕 いちつちよういつせき

問六 D 相応の代償は必要になります。 とありますが、「相応」とは、「ふさわしい、つり合っている」という意味です。そのことをふまえ、「相応の代償」によってよい結果を得ることの具体例を考えて書きなさい。

問七

E 役に立たなくなつたときにどうしたらいいのでしょうか。とありますが、それに対する答えとして筆者はどのようなことをあげていますか。本文中の言葉を用いて十五字以内で書きなさい。

問八

F この人がこうだから、あなたもこうでしょうということにはなりません。とありますが、これについて説明した次の文章の〔I〕～〔M〕にあてはまる言葉を、本文中からぬき出して書きなさい。ただし、それぞれ〔 〕内で指定された字数とします。

筆者の父の形見の時計が壊れた場合、他人はただの壊れた時計として見るが、筆者にとっては尊敬していた父がつけていたため大切なものである。この場合、他人は〔I 二字〕で、筆者は〔II 三字〕で時計の価値を判断している。同じ物に対しても人によって価値判断の基準は異なるように、終末期の患者さんたちにとっての苦しみも〔III 三字〕が高く、一人ひとりの〔IV 五字〕は異なっている。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

連合運動会のクラス代表に選ばれてしまった「おれ」（山口拓馬）の趣味は「なんにもしないこと」。だから、練習に熱心なもうひとりのハードル選手「でくちゃん」の誘いにも消極的で、低血圧を口実に朝の練習にも参加せずにいた。クラスのカラスのボス「木崎」は「おれ」をよく思っておらず、嫌味を言ったり嫌がらせをしたりしている。その理由が、実は「おれ」へのねたみからだだったと木崎の子分に教えられた「おれ」は、ある朝、行動に出る。

もやもやとした気分が晴れたら、三日続いた雨も上がった。水曜の朝、空はどこまでもスカッと青く、澄んでいた。

ところで、木崎の期待のほうは、ぼつちり裏切ることにした。おれは①久々に早起きをして、親をびつくりさせたあと、背中のリュックをがちゃがちゃ鳴らして、小学校まで走っていった。こういう場合は、ジャージーで行くのが正解なんだと思つて、そうした。校庭は少し湿っていたけど、使えないほどひどくはなかった。

「用具置き場のカギください！」

職員室で、おれは叫んだ。日誌を見ていた堀先生が、驚いた顔でこつちを向いた。

「ど、どうしちゃったの。山口くん」

「どうもしません。カギください」

それで話は、一応通じた。堀先生にカギをもらうと、おれは校庭に出て行って、コースの線を直しはじめた。そのときはまだ、おれの前には選手はだれもきていなかった。おれはコースを直しおえると、ひとりで準備体操をして、トラックの上をぐるぐる回って、足の筋肉をあたためた。

七時半過ぎ、選手の姿が、ようやく「ちほ」に見えてきた。肌寒かった外の空気も、日射しを「ア」びて温もった。でくちゃんは、ほかの選手のひとりと話をしながら、やってきた。おれがすっかり並べおわったハードルの横にいるのを見ると、「あれ？」というような表情をして、斜めに首を傾けた。

「遅いぜ、でくちゃん」





「じゃ、でくちゃん、やってみて。今度はおれが見てるから。ゆっくり走っていいからさ」

「わかった。ゆっくりやってみる」

でくちゃんは体をⅢささ播らして、スタートラインのところへ行った。それから、あわてて、解けかけていたシューズのひもに手をやった。

「山口」

「ん？」

「ひとつ聞いていい？」

そういわれて、おれはちよつと③カマえた。堀先生とおなじことを聞かれるのかな、と思ったからだ。でも、でくちゃんの質問は、予想したのと、まるで違った。シューズのひもを結びおえると、でくちゃんは、おれにこういった。

「あの、低血圧、治ったの？」

……なんていうかその、でくちゃんは、呆れてものがいえなくらい人がよすぎるやつなんだ。

まあそんなわけで、でくちゃんとおれは、めでたくコンビを④フツカツさせた。その日を境に、でくちゃんはどたばた走りをしなくなり、山口拓馬は練習嫌いのサボリ屋なんかじゃなくなった。あてがはずれた木崎のやつは、つまらなそうな顔をして、ジャージー姿の山口拓馬を子分といっしょに眺めてた。もちろん、おれは、そうするつもりでダサイジャージーを着てるんだから、つまらなそうな木崎を見るのは、死ぬほど愉快でたまらなかった。

練習時間のあいだじゆう、おれはひたすら手足を動かした。クワを握った農家の人が荒れた畑を耕すように、ぎざぎざがついたシューズの底で校庭の土を蹴りつけた。スタートダツシユ。もも上げ。ジョギング。腹筋運動。スクワット。踏み切り、着地。踏み切り、着地——もひとつおまけに踏み切り、着地。

「湿布薬ある？ でかいやつ。筋肉痛がひどくてさ」

ジャージー生活一日の夜、おれはおふくろにそう聞いた。

「まめが潰れた。パンソーコーは？」

二日めの夜は、そう聞いた。毎晩、おれはくたくたになった体をベッドにもぐらせた。夢も見ないで、ぐっすり寝て、朝の六時にはむっくり起きた。疲れているのに、よく寝たおかげで、頭はスッキリさえていた。お昼がきても、お昼を過ぎても、眠気は襲ってこなかった。仕方がないので、退屈しのぎに聞きたくもない授業を聞いた。それでもやっぱり退屈なので、とりたくもないノートをとって、それでも時間が増えてしまうと、めったに挙げない手を挙げた。

「先生、ちょっといいですか」

「はい、山口くん、なんですか」

「黒板の文字が間違ってます。そこ、オーストリアじゃなくて、オーストラリア」

三日めの午後、社会の授業を受けているときのことだった。

「E……奇跡が起きた」

隣の席で、岡野が、ぼそっとつぶやいた。

〈笹生陽子著『きのう、火星に行った。』（講談社文庫）より。〉

問一 ① 久々 ② アびて ③ カマえた ④ フツカツ の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

問二 I ち    II     III    の  の中に一字ずつひらがなを入れて、状態や様子を表す語を完成させなさい。

問三 A 水曜の朝、空はどこまでもスカッと青く、澄すんでいた。 という部分は、実際の風景を描び写りするだけではなく、「拓馬」の気持ちを暗示する働きを持っています。どのような気持ちを暗示しているのでしょうか、自分の言葉で書きなさい。

問四

B 木崎の期待 とありますが、「木崎」はどのようなことを「期待」しているのでしょうか。答えとしてもふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「拓馬」が先生に目をつけられること。

イ 「拓馬」がいくら練習しても上達しないこと。

ウ 「拓馬」が勉強をなまけて点数が下がること。

エ 「拓馬」が練習に熱心に取りくまないこと。

オ 「拓馬」がでくちやんと仲たがいをすること。

問五

C 「ど、どうしちゃったの。山口くん」という「堀先生」の言葉から、それまでの「拓馬」がどのような人物だったことがわかりますか。本文中から十字程度でぬき出して答えなさい。

問六

D ふたつの目玉をパチクリさせた。からは「でくちゃん」のどのような気持ちが読みとれますか。答えとしてもふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「拓馬」の好意をかえって迷惑めいわくに思っている。

イ 「拓馬」の言うことが理解できずとまどっている。

ウ 「拓馬」の走りのすばらしさに心から感動している。

エ 「拓馬」の期待にそえるかどうかと不安になっている。

オ 「拓馬」の熱意こたに心えようと自分をふるいたたせている。

問七

E ……奇跡きせきが起きた とありますが、何を「奇跡」だと「岡野」は言っているのですか。また、それは何によって起きたのですか。それぞれを二十五字～三十字で書きなさい。

問八 「拓馬」と「でくちゃん」は本文中でどういう人物として描かれていますか。それぞれの特徴をまとめて書きなさい。